

社団法人 日本補綴歯科学会  
発行人 赤川安正 編集 広報委員会  
〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9  
社団法人 日本補綴歯科学会  
Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630

Japan Prosthodontic Society



## Letter for Members No. 22 2006

<http://www.hotetsu.com/> 2006.7.10 発行

### 《コンテンツ》

各委員長が活動を語る	受賞者の声..... 8, 9
—昨年度の報告と今年度の目標—..... 1-7	関連学会報告..... 9-11
海外留学先紹介..... 7, 8	関連学会案内..... 12

## 各委員長が活動を語る 昨年度の報告と今年度の目標

### 学術委員会

委員長 佐々木啓一

赤川執行部における活動も瞬く間に1年が過ぎました。平成17年度は年2回の学術大会を開催した最後の年であり、第113回と第114回大会の報告をしなければなりません。第113回大会は野首孝祠教授（阪大）を大会長として、平成17年5月14日（土）・15日（日）の両日、大阪市・グランキューブ大阪（大阪国際会議場）にて開催されました。参加者数は2,080名と、本会の定例学術大会としては初めて2,000名を越す参加者を数えました。第114回は河野正司教授（新大）を大会長として平成17年10月1日（土）・2日（日）、新潟市・朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催され、有料登録者数1,632名、その他、市民フォーラム参加者等を加え1,956名の参加者を得ることができました。今期学術委員会が立案から関わった企画は第114回大会のシンポジウム、研究セミナーなど一部だけでしたが、河野前委員長ならびに野首、河野両大会長のご尽力により、多岐の領域に渡る企画を組むことができ、多数の参加者を得ることができたものと思います。両大会長、主管校の皆様には心からの感謝を申し上げます。なお両大会

において各企画の参加者を対象にアンケート調査を行い、企画および内容に関しての意見を聴取致しました。その結果、多数の建設的なご意見、ご要望を頂きました。第115回大会以降の学術大会企画ならびに平成18年度活動に反映させております。アンケート結果は現在、学会HPに公開しております。

さて第115回学術大会は、平成18年7月8日（土）、9日（日）の両日、平井敏博教授（北医療大）を大会長として札幌コンベンションセンターSORAにて開催されました。年1回だった初めての学術大会であり、課題口演42題、一般口演44題、ポスター発表118題（国際4題含む）と多数の演題応募をいただきました。また多数の講演会場を設けることのできるセンターであり、特別講演1本、海外招待講演2本、シンポジウム4本、研究セミナー3本、臨床スキルアップセミナー2本、専門医研修1本と多数の企画を並列で開催いたしました。これまでの大会とは大きく異なった運営形態であり、会員の反応が気になりましたが、総参加者数は2,700名を越し、各会場とも予想を大きく超える聴衆にお集まりいただきました。企画に関わった学術委員会、大会校はもちろんのこと、執行部一同、少し安堵しており

ます。しかしながら初めての催し、試みも多かったことから会員の皆様に混乱、迷惑をおかけしたことも多々ありました。これらの経験を、次回以降の大会運営に生かしていければと思っております。

さらに第116回大会の企画検討も既に始まっております。こちらは井上 宏教授（大歯大）を大会長に平成19年5月19日（土）、20日（日）に神戸ポートピアホールにて開催致します。この大会は第5回アジア補綴歯科学会（古谷野 潔 大会長：九大院）との共催とし、第115回と同様に海外からの招待講演を含む企画を考えております。皆様からの企画案募集を行っておりますので宜しくご協力のほどお願い致します。

### 編集委員会

委員長 志賀 博

平成17年度の活動は、7回の委員会を開催し、和文誌（49巻4号、49巻5号、50巻1号）では、依頼論文8編、症例報告3編、原著論文16編、認定医症例報告6編、英文誌（5巻1号）では、Review Article 1編、Original Article 8編を掲載することができました。

和文誌では、今後の臨床で使用される可能性が高いファイバーコアの現況報告を50巻2号に掲載することにしました。また、第114回学術大会での講演について、「歯科補綴のストラテジックプラン」、「歯科補綴研究に役立つ統計学」、「PRPのスキルアップセミナー」を依頼論文として選出しました。さらに、査読結果について、3名の査読者の判定がかなり異なる場合、担当編集委員が総括し、必要に応じて修正することになりました。

英文誌（PRP）では、まずJDRやJPDなどの

国際誌を調査し、体裁を変更しました。次いで、MEDLINEの雑誌選択基準を調査し、PRPの年4号化、海外査読者の選出、独自性のある論文の掲載、年間30編以上の論文の掲載などを実現することとしました。投稿論文は返却ではなく掲載する方向で、これまで以上の懇切丁寧な査読を行うこととしました。PRPのスキルアップセミナーを第114回学術大会と各支部会で継続的に開催しました。

平成18年度の活動は、和文誌は研究・教育・臨床成果を公表する場でありますので、原著論文に加え、依頼論文やテーマ論文などの内容の充実を図りたいと思います。また、本年度は、赤川体制の2年目ですので、各委員会の成果を集約し、会員の皆様に還元したいと思います。

PRPは、平成18年から年4号の発刊を実施しておりますが、これは、世界で認められる国際的な学術誌を目指すためであります。全編集委員でMEDLINEに登録できるよう内容を整備していく予定ですが、そのためには皆様からの積極的な投稿が不可欠ですので、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

### 国際渉外委員会

委員長 古谷野 潔

平成17年度は、海外の補綴関連学会との交流の促進、活動状況の会員への広報を行いました。平成18年4月28、29日ソウルにて開催されたKAP第3回 joint meeting については、演題とりまとめ、出席予定者リスト作成、宿泊予約の取り次ぎを行いました。同学会との英語版交流協定を作成しました。第3回 joint meeting 時に両学会の会長により、署名されました。AAPについては、第4回大会が平成17年8月バンコクにて開催され、第5回大会は日本補綴歯科学会第116回学術大会（大会長：井上 宏・大阪歯科大学教授）と併催で2007年5月18日（金）～20日（日）に開催予定です。GNYAPとのジョイントミーティングは、東京都江東区のTFTホールにて2007年10月20日（土）、21日（日）の日程で開催されることとなりました。ICPは、第11回大会が2005年5月、クレタ島にて開催され、次回は2007年9月5日（水）～8日（土）福岡市で開催予定です。

海外の補綴関連学会との交流につきましては、Chinese Prosthodontics Societyとの交流協定

を英語で作成し、先方の同意を得ました。平成18年8月に中国で調印予定です。また、American Prosthodontic Societyとの交流を図るため、APS会長Dr. H. W. Preiskelと詳細を話し合っています。

平成18年度は、19年度に開催される3つの国際学会（ICP, AAP, GNYAP）の準備および中国、アメリカをはじめとする諸外国の補綴学会との交流進展を図るべく活動して行く予定です。

### 用語検討委員会

委員長 五十嵐順正

前委員会の活動を引き継ぎ、委員長五十嵐以下総計5名のメンバーで活動してきました。平成17年4月委員会編成時、大阪、新潟における本学会学術大会時に委員会を開催しました。

前期の委員会において「日本補綴歯科学会用語集」第二版が制作されたことをうけて、昨年度の委員会ではこの用語集のブラッシュアップを図るとともに、他の学会、日本歯科医学会および歯科医師国家試験、共用試験などへの用語採用に向け、種々な場面で働きかけを行いました。今後も引き続き用語集のブラッシュアップを行っていく予定です。

特に日本歯科医学会学術用語集の最終ブラッシュアップについて委員会として取り組み、現在必要とされる補綴関連用語943語を答申いたしました。この中には坂東委員提案の「相補下顎運動」など新たな語も含まれます。歯科保険電子カルテ用語集についても最終的な検討を加えましたが、保険用語と補綴学用語との差異は大きく、その整合性については本年度の検討課題となります。

### 医療問題検討委員会

委員長 市川哲雄

医療問題検討委員会では、平成15、16年度委員会に引き続き「症型分類」について検討を行っています。症型分類は、補綴歯科治療の治療対象とする疾患、障害の病態を評価するもので、以下のような効果が期待できます。

- ① 専門医制度、研修医制度、病診連携等における症例の整理、情報交換の目安。
- ② 症例のデータ分析、施設内、施設間の種々のデータ収集、蓄積、評価に活用。
- ③ 診療報酬等の保険導入、点数配分等の基礎資料となる。
- ④ 歯科医療の社会（患者、第三者機関）に対する説明責任、評価に対して、一般にも理

解しやすい明解で科学的な分類は必要不可欠。

- ⑤ クリティカルパスの構築、診察・検査の見落とし防止のため。

平成17年度は、症型分類1（初診時の評価基準：「口腔の条件」、「身体社会的条件」、「口腔関連QOL」、「精神医学的条件」）についての案をまとめ、平成18年度は、この案の妥当性、信頼性を検討するための大規模コホート研究を、厚生科学研究費のサポートと全国20教室あまりの協力を得て開始しています。是非ともご協力お願いいたします。

### 会則等検討委員会

委員長 田中貴信

平成17年度の委員会は6回開催しました。審議事項としては、平成17年3月発行の諸規定集に関して、その内容の全面的な確認作業を行ってきましたが、その中で特に、「役員・代議員選任規程」、「支部規程」、「支部助成金内規」、講演等に係わる謝礼等に関する規則、「認定審議会規程」、「認定医制度規則」、「認定医制度施行細則」の一部を変更しました。また、各支部における「支部規則」の雛型を作成し、これまで正式な認知に欠けていた「支部長会規定」も新規に作成しました。さらに、専門医制度への移行を踏まえ、「専門医制度規則」、「専門医制度施行細則」も新設しました。

これらの改変、新規規程に関しては、平成18年3月5日（日）の理事会、総会において、承認され、同日付で発効しております。

今後は、何がしかの問題点が提示された時点で、その件の検討を行うこととなりますが、現時点での具体的な作業目標はございません。

NC VERACIA

ナノテクノロジーと  
機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

**NC Veracia**

医療用具承認番号 21100BZZ00751

**NC ベラシア アンテリア**

硬質レジン歯（前歯用）1組…¥780 色調：A1、A2、A3、A3.5、B2  
形態：上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

**NC ベラシア ポステリア**

硬質レジン歯（臼歯用）1組…¥1,040 色調：A2、A3、A3.5、B2  
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格（消費税抜き）です。

世界の歯科医療に貢献する  
**株式会社 松風**  
本社 ● 〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11-TEL:075/561-1112(代)



## 広報委員会

委員長 石橋寛二

平成 17 年度は、一般への補綴の周知と会員に対する専門医に関する情報提供に主眼をおいて活動してきました。

広報誌である「Letter for Members」は 学会が進めている専門医制度に関する動きなどを中心に、学術大会報告やトピック的な内容などで記事を構成し、17～20 号の 4 回発行しました。

また、皆様にご利用いただいておりますホームページですが、平成 17 年 9 月 16 日「補綴の周知」を目指し、一般向けホームページをリニューアルしました。アクセス数も増加傾向にあります。ホームページに寄せられる質問は、治療法、保険制度など多岐にわたり、一般の方に有効活用いただいているものと思われます。回答は各委員長のご協力のもと進めさせていただいております。回答いただきました委員長各位に感謝申し上げます。歯科関係者ならびに会員の皆様からの事務的な問い合わせなども増えており、ホームページを有効活用いただいていることを実感しております。

平成 18 年 4 月に、会員向けホームページをリニューアルしました。オンラインでの手続きなどを充実させ、より一層の HP 充実を図ってまいります。なお、ホームページ URL は、<http://www.hotetsu.com/> となりました。「補綴」への思いをこの URL に乗せて情報発信してまいります。今後も広報委員会の活動にご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

## 教育問題検討委員会

委員長 櫻井 薫

平成 17 年度活動状況は、以下のとおりです。

① 学会教育基準と国家試験出題基準の比較について

学会教育基準と国家試験出題基準の比較を行いました。国家試験出題基準には、本学会教育基準の内容はすべて含まれておりますが、その中で両者で中項目と小項目が反対になっているものがあるので、その対応を協議しました。

② 教育基準に追加すべき項目の抽出について

これまでの教育基準に実技項目を追加していくのは困難であるため、従来の教育基準についてはこれまでどおりの範囲で知識に関する教育基準として改定を行い、新たに「実技教育基準（仮題）」を作成する方向で検討を行いました。

平成 18 年度の活動目標は、「実技教育基準（仮題）」を作成することになったことを受けて、レベル分けの方法を検討してまいります。

## 生涯学習検討委員会

委員長 清野和夫

委員会の主な活動は生涯学習公開セミナーの開催にありますが、平成 17 年度は支部学術大会と併催された公開セミナーが 7 回、支部会が地元歯科医師会と共催した公開セミナーが 1 回の合計 8 回の開催でした。そのために開催した委員会が 4 回で、主にセミナーのテーマについて協議してまいりました。特に、支部会が定めるテーマとは別に、学会側から推薦するテーマをまとめました。大項目を列記すると、1) 全部床義歯難症例を見極める、2) 部分欠損歯列への処置方針（部分床義歯の設計）、3) 少数歯欠損への対応、4) 補綴治療におけるリスク診断とリスク回避、5) 歯周組織と調和した補綴治療、6) 補綴治療における審美的対応、7) 咬合と心身症の 7 テーマです。

平成 18 年度の活動計画は、支部学術大会と併催、あるいは地域歯科医師会と共催して開催する生涯学習公開セミナーを 10 回開催すること、そのための委員会を 4 回開催することです。支部会あるいは歯科医師会の先生方には、学会側が推薦するテーマも参考にさせていただき、実り多き生涯学習公開セミナーを開催して下さいようお願い申し上げます。

Happy Smiles & Heartful Communication

### デンタルエステをはじめませんか MORITA

- 審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研磨性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

## ハイスリッド セラミックス エステニア C&B

■標準価格 スタンダードセット 128,000円  
●医療機器承認番号 21500BZZ00534

製造販売元 クラレメディカル株式会社  
販売元 株式会社モリタ 東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161  
大阪本社 大阪府吹田市豊水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525

●掲載商品の標準価格は、2005年4月21日現在のものです。  
標準価格には消費税等は含まれておりません。

www.dental-piazza.com

## 社会連携委員会

委員長 冲本公繪

平成 17 年度活動では、委員会は 5 回開催し、市民フォーラムや公開講座は下記の 11 回開催しました。

- ①平成 17 年 7 月 13 日「千葉市民文化大学講座」後援  
『歯の健康について 一口腔の美と機能』  
講師：佐藤 亨（東歯大）
- ②平成 17 年 9 月 4 日「中四国・九州合同支部会市民フォーラム」  
『噛み合わせと入れ歯が介護を助ける』  
座長：山根 進（中国・四国支部）  
講師：鱒見進一（九歯大）、池田弘一（中国・四国支部）、冲本公繪（九大院）
- ③平成 17 年 10 月 2 日（日）「日本補綴歯科学会第 114 回学術大会・新潟市民フォーラム」  
『広げよう！要介護者への口腔ケア・噛める入れ歯と口腔ケアで介護予防』  
講師：野村修一（新大院）、石井拓男（東歯大）、片山 修（新潟県歯科医師会）、杉本智子、高橋純子（新潟県歯科衛生士会）、伊藤加代子、田巻元子（新大院）
- ④平成 17 年 10 月 16 日（日）「歯ートフル・トーク in AOMORI」後援  
『今日から始める噛み合わせ対策』  
講師：石橋寛二（岩医大）
- ⑤平成 17 年 10 月 18 日（火）「土別市九十九大大学学習講座」後援  
『噛むことは老化を食い止められるか？』  
講師：越智守生（北医大）
- ⑥平成 17 年 10 月 28 日（金）「日本大学文化祭ジョイント・一般市民向フォーラム」  
『わかりやすい入れ歯、ブリッジ、義歯、補綴（ほてつ）一歯ナシにならないための話』  
講師：飯沼利光（日大）
- ⑦平成 17 年 11 月 12 日（土）「北日本口腔インプラント研究会市民公開講座」後援  
『「食べる」「話す」「笑う」を考える～歯科と高齢者の QOL との関わりとは？』  
講師：越智守生（北医大）
- ⑧平成 17 年 11 月 17 日（木）「知立市学校保健大会記念講演」後援  
『外傷予防とマウスガード』  
講師：荒木章純（愛院大）
- ⑨平成 18 年 1 月 8 日（日）「西関東支部・市民フォーラム」

『美しい歯で、良く噛んで、若返る・補綴歯科専門医の役割』

座長：福島俊士（鶴見大）

講師：細井紀雄（鶴見大）、飯島国好（西関東支部）

- ⑩平成 18 年 2 月 19 日（日）「東関東支部・千葉県県民公開講座」後援  
『食育のすすめ～大切なものを失った日本人～』  
講師：服部幸應（学校法人服部学園理事長・校長、服部栄養専門学校・校長）
- ⑪平成 18 年 2 月 26 日（日）「関西支部・市民向け公開講座」  
『歯からはじまる健康生活 美しい口元で心豊かな人生を 一今私たちにできること』  
講師：末瀬一彦（大歯大）  
平成 18 年度の活動計画では、市民フォーラム等の開催、市民に対する補綴広報パンフレットの発行、インフォームドコンセントに使用する視覚素材の作成をすすめます。

## 専門医制度検討委員会

委員長 野村修一

平成 17 年度の活動報告では、専門医制度の施行に向けて委員会を 2 回開催して、「専門医制度規則、施行細則」の原案を作成し、理事、代議員の先生方からアンケートでご意見をいただきました。その後、認定審議会、医療問題検討委員会と連携して専門医制度規則・施行細則および専門医資格認定団体に係わる基準該当届などの専門医資格認定団体申請に必要な書類を作成しました。これらの書類が 8 月 7 日に開催された臨時総会において承認され、8 月 8 日に日本補綴歯科学会専門医制度が施行されました。その後、日本歯科医学会認定医・専門医制協議会での審議を経て、日本

ハイブリッド型硬質レジン

# パールエステ 誕生

口腔内でのツヤの  
持続を実現!!

真球状のフィラーを高充填

保険適用外

歯冠用硬質レジン(管理医療機器)承認番号21600BZZ00301000

カタログ請求はインフォメーションサービス

☎0120-54-1182 受付時間 9:00~12:00/13:00~17:30  
(土・日祭日を除く)

※パールエステは充填用コンボジットレジンではありません。

株式会社 トクヤマデンタル 本社:〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9  
http://www.tokuyama-dental.co.jp TEL 03-3835-7201

歯科医学会から厚生労働省への申請が了承されました。現在は、厚生労働省に専門医資格認定団体を申請し、ヒアリングと書類による回答が終わり、審議結果を待っているところです。

この間、会員の皆さまから専門医制度の理解が得られるように、専門医制度に関するさまざまな疑問に対してニュースレター（第20号「専門医制度Q&A」）などを通じて周知活動を行いました。

平成18年度の活動では、開業歯科医による補綴歯科専門医の取得が増加する方策、日本補綴歯科学会が認定するコ・デンタル資格、サブスペシャリティ専門医（分化診療系学会専門医）との関係などを検討する予定です。

### ガイドライン作成委員会

委員長 寺田善博

平成17年度は、第1回ガイドライン作成委員会（平成17年4月15日）および第2回ガイドライン作成委員会（平成17年6月17日）を開催、新しいガイドラインの作成項目として挙げた6項目から、「リベースのガイドライン（案）」と「ブリッジによる補綴の診療ガイドライン（案）」を早急に検討することにして、その骨子を決定しました。

第3回ガイドライン作成委員会（平成17年8月18日）では、「リベースのガイドライン（案）」を「リラインとリベースの診療ガイドライン（案）」に変更しました。「ブリッジによる補綴の診療ガイドライン（案）」については、補綴学会代議員へのアンケートにより方向性を決定することにしました。

第4回ガイドライン作成委員会（平成17年10月14日）では、アンケート結果とガイドラインの記載内容について、委員会で検討し、委員長会で協議していただきました。「リラインとリベースのガイドライン」については、歯科医学会のアンケート結果と社会保険研究所の「リベースについて」を踏まえて作成された「リラインとリベースの診療ガイドライン（案）」について検討し、委員長会で協議していただきました。

第5回ガイドライン作成委員会（平成17年12月2日）では、引き続き「リラインとリベースの診療ガイドライン（案）」と「ブリッジによる補綴の診療ガイドライン（案）」について検討しました。

平成18年度は、まず「リラインとリベースの診療ガイドライン（案）」を早急に検討して、ガイドラインを作成し、続いて「ブリッジによる補

綴の診療ガイドライン（案）」についても検討を進め、ガイドラインを作成する予定です。さらに今後どのようなガイドラインを取り上げるべきかについても検討を始めることにしております。

### 社会保険委員会

委員長 福島俊士

社会保険委員会は赤川執行部となって医療問題検討委員会から新たに分離独立した委員会です。平成17年度の活動内容としては、対外的な活動が多くを占めました。まず、日本歯科医学会関連ですが、同会が平成16年度末に立ち上げた社会保険等に関する「歯科医療協議会WG1」は今年度にはほとんど活動しませんでした。一方、平成18年1月に「海外で作製された歯科補綴物等の検討臨時委員会」が新たに立ち上げられ、この問題について諮問がありました。そのため、社員を対象にアンケート調査を行い、同じ調査を行った歯科医療管理学会の結果と合わせて3月29日付けで答申書を提出しました。次に、日本歯科医師会関連では、同会の疑義解釈委員会に鈴木（哲也）、福島の名が委員として参加しました。平成17年10月28日に第1回委員会がもたれ、保険診療における、①診断基準の策定、②治療指針等の策定関係、③治療指針等見直し関係、④準用通知項目について、それぞれ諮問がありました。期限は1カ月後とのことでしたので、急遽作成し11月28日に答申しました。最後に、学会内部の活動として、平成20年度に予定される次期診療報酬改定に向けて社員を対象にアンケート調査を行いました。

平成18年度の活動方針は、次のとおりです。

今年4月実施の診療報酬改定には多くの問題点が指摘されていますが、早くも次期すなわち平成20年度の診療報酬改定のための日程表が提示されています。次期に備えた日本補綴歯科学会としての要望項目の選定ならびに「希望書」作成が今年度の活動となります。会員諸兄からのご意見をぜひ頂戴したいと考えていますのでお寄せください（fukushima-s@tsurumi-u.ac.jp）。

### 特命委員会

委員長 長岡英一

特命委員会のメンバーは、委員長（長岡英一）と幹事（濱野 徹）以外は決まっておらず、必要に応じて関係者に加わっていただいで活動しています。



平成 17 年度は、これまで、赤川安正理事長、井上 宏副理事長、矢谷博文庶務担当理事の参画のもと、津賀一弘理事長幹事、石垣尚一庶務担当理事幹事、佐藤裕二専門医制度検討委員から情報を得て、「補綴」の認知度の現状分析と「補綴」の周知を実行するための周知・認知戦略を策定し、それをもとに次の活動を行いました。

①「補綴」の認知度の現状分析：メディア（インターネット、新聞雑誌）での使われ方の検討、認知度のアンケート調査（インターネット調査、歯科関連業者のアンケート調査の利用）。さらに、各大学の補綴関連診療科でのアンケート調査の実施も検討しましたが、さらに認知度調査することの意義がないと判断し、周知活動に入りました。

②「補綴」の周知活動：1) 読売新聞医療ルネッサンスへの補綴関連記事掲載の打診を行ったが実現に到りませんでした。2) 鹿児島県健康増進課のホームページに「補綴」の情報提供のための記事を掲載し、日本補綴歯科学会と鹿児島大学病院義歯補綴科のホームページアドレスを掲載しました。3) 南日本新聞情報誌フェアに虫歯予防デーを利用して広告記事を掲載し、日本補綴歯科学会と鹿児島大学病院義歯補綴科のホームページアドレスを掲載しました。4) 「補綴」周知の戦略としての PR プロダクション活用検討 WG（森戸光彦財務担当理事、櫻井 薫理事・教育問題検討委員長、佐藤裕二専門医制度検討委員会副委員長、北川 昇広報委員会委員）が設置され、2 社から提出された PR 資料についての報告が行われた。

平成 18 年度は、PR プロダクションへの業務委託の内容を決定し、補綴の PR 展開の具体的なロードマップを作成して、実行に移す予定です。

## 認定審議会

委員長 古屋良一

平成 17 年度の委員会は、認定審議会を 2 回開催し、以下の事業を審議、実施しました。

①認定事業：新規認定医 26 名、認定医の更新 110 名の認定。新規指導医申請 25 名の適格性の認定。認定研修機関の新規申請、(甲) 1 機関の適格性の認定。認定研修機関の更新申請、(乙) 2 機関の認定。平成 17 年度の認定医申請ケースプレゼンテーション演題数は計 40 題、認定医症例報告論文の査読、20 件でありました。

②認定医・専門医研修会の開催：第 113 回学術大会（野首孝祠大会長）との併催で、「補綴治療の予後に直結する落とし穴ー補綴治療と歯周疾

患ー」を開催し、572 名（当日の認定研修カード提出者）の出席を、また、第 114 回学術大会（河野正司大会長）との併催で、「補綴装置に付与する咬合接触ークラウン・ブリッジについてー」を開催し、548 名（当日の認定研修カード提出者）の出席者を得ることができました。

③各種の改定：専門医制度への移行に伴って、規則、細則、手続方法を含めて多くの改定作業を行いました（詳細は、補綴誌上の活動報告を参照）。

平成 18 年度の活動は、①認定事業、②専門医研修会の開催、③認定医・専門医症例報告論文の査読、④専門医審査時の筆記試験、口頭試問の検討を計画しています。

## 海外留学先紹介

スイス・チューリッヒ大学歯学・口腔医学・顎顔面外科学センター顎口腔機能障害学講座



薩摩登誉子

（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部咬合管理学分野）

私は、徳島大学歯学部を卒業後、坂東教授のもと歯科補綴学第二講座（現ヘルスバイオサイエンス研究部咬合管理学分野）に在籍し、2005 年 4 月よりスイス・チューリッヒ大学歯学・口腔医学・顎顔面外科学センター顎口腔機能障害学講座に留学させていただいています。私の留学前には 2 人の先輩がそれぞれ 2 年、3 年と留学されており、大学での研究内容やチューリッヒでの生活の仕方などはほとんど全て教えていただきました。おかげで私の留学生活はほかの先生方に比べるとはるかに良い状態でスタートすることができました。スイスにはドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語と 4 つの公用語があり、チューリッヒはそのうちのドイツ語圏です。しかし、多くの人が英語を話すことができ、また外国からの留学生も多く、研究室では英語で会話しています。

すでに留学して 1 年が経過していますが、私は Sandro Palla 教授の講座で「高精度顎頭運動が測



チューリッヒ市街

定可能な顎運動測定器の開発」という研究に加わり、測定器のソフトウェア開発部分を担当しています。この研究には教授を含め4人で進めています。今は大学院生時代に培ったわずかなプログラミングの知識を元にPCに向かう日々を過ごしています。同室にはあと2人のエンジニアが仕事をしています。一人はイタリアからの留学生で、光学式運動測定器で測定した顎頭運動データとMRIから得られる形態データから顎頭運動の解析を行っています。現在、彼女は学位を取得するために顎関節の機械的な再構築モデルを製作しようとしています。ここでは大学院生はお給料を戴きながら（交渉次第だと思いますが）学位を取得することができます。もう一人はインドからの留学生で6カ月という短い期間ですが、携帯型筋電図測定装置のソフトウェア開発をしています。

チューリッヒの気候は北海道に似ていて湿度が低く、夏も非常に過ごしやすいです。でも冬は北海道ほど雪は多くなく、室内はセントラルヒーティングのおかげで暖かいです。この地でもうしばらく研究をしながら色々な人との交流もしていきたいと思っています。

## 受賞者の声

(社)日本補綴歯科学会第114回学術大会  
課題口演コンペティション賞



野地美代子（東北大院）  
「パウダージェットデポジションによる歯質上へのHA膜形成と評価」

このたびは、日本補綴歯科学会第114回学術

大会課題口演コンペティション優秀賞をいただき、大変光栄に思います。本当にありがとうございました。

私の所属する東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野では佐々木啓一教授のご指導のもと、工学や材料学をはじめとする他領域との研究連携を積極的に行っています。今回受賞させていただいたパウダージェットデポジション(PJD)法に関する研究も、教室で進行している数ある連携研究プロジェクトのひとつであり、東北大学大学院工学研究科ナノ加工学分野の厨川常元教授との共同研究です。本研究は生体硬組織の主たる構成要素であるハイドロキシアパタイト(HA)の微粒子を、新たに開発した歯科用PJD装置を用いて、高速で歯質表面にHAからなる強固な構造体を生成するものです。

従来の歯質欠損の治療は、欠損部に金属、セラミックス等の修復物を合着(接着)するか、レジンやセメントを充填することによって行われていますが、歯質と合着材、充填材との界面性状が治療後の経過に大きくかかわっています。すなわち、歯質と人工物の界面における組成的、機械的、熱的性質の違いからマイクロリーケージを生じ、修復物の脱離に至る場合が多いのです。こういった従来の歯科治療が抱えていた問題の多くは、歯質と同様の物質を歯質上に直接、付着・築盛できれば解決しうるのではないかと考えられます。

そこでPJD法を用いて歯質上に直接HA膜を形成し、歯質-修復物間に新たなインターフェイスを形成することで、従来の歯科治療が抱えていた様々な問題点を解決し、PJD法による新たな歯科治療の可能性を探る目的でこの研究はスタートしました。

このテーマは、東北大学大学院工学研究科で21世紀COEに採択された「ナノテクノロジー基盤機械科学フロンティア」の連携研究プロジェクトの1つとして共同研究され、現在は本格的な臨床応用を目指して口腔内への応用試験中です。いまだ解決しなければならない課題も多いですが、幅広い用途が考えられ、今後の発展が楽しみな研究であると思っています。

科学が進みそれぞれの領域が高度に細分化、専門化している昨今において、種々の科学技術・成果を持ち寄り新たな歯科領域を開拓する一このよ



うなすばらしい機会を与えて下さり、指導教官として始終ご指導くださった、佐々木啓一、厨川常元両教授，そしてハイドロキシアパタイトに関して多くの助言を賜りました東北大学大学院歯学研究科顎口腔機能創建学分野の鈴木治教授はじめ諸先生方に心から厚くお礼申し上げます。

(社) 日本補綴歯科学会第 114 回学術大会  
デンツプライ賞



伊藤加代子 (新大院)  
「要介護者口腔保健医療ケアに係るクリニカルパスの開発 第5報 クリニカルパスの作成」

この度はデンツプライ賞の栄誉を賜り、誠に光栄に存じます。

受賞の対象となった研究は、平成 14～16 年度厚生労働科学研究補助金の助成を受けて遂行したものです。長寿科学振興財団、主任研究者としてご指導いただいた河野正司先生、野村修一先生をはじめとする諸先生方と、研究にご協力いただいたすべての方々に厚くお礼申し上げます。

今年度から介護保険に口腔機能向上が導入され、要介護者の口腔ケアに対する意識の高まりを感じます。しかし、その一方で、歯科治療が必要であると思われる要介護者のうち実際に歯科を受診したのはわずかであるという調査結果が出ております。歯科を受診しない理由として「どこに申し込めばよいのかわからない」「治療の見通しがわかりにくい」などという声が聞かれました。それを改善すべく作成したのが本研究の「クリニカルパス」です。クリニカルパスは、歯科治療の流れと職種間の連携を一覧できるようにしています。また、研究班のホームページから自由にダウンロードできるようにしました。今後、各地区の実情に合わせて改良し導入していただくことで、要介護者が歯科治療を受診する一助となればと願ってやみません。

これからは、この受賞を励みとして、要介護者の口腔の健康のためにさらに精進したいと考えておりますので、今後ともご指導賜りますようお願いいたします。

## 関連学会報告

Korean Academy of Prosthodontics (KAP)  
第 3 回ジョイントミーティング



ポスター会場にて

去る 4 月 28 日 (土)、29 日 (日)、ソウル市内のホテルロッテワールドにて Korean Academy of Prosthodontics (KAP) と日本補綴歯科学会 (JPS) のジョイントミーティングが開催されました。本ジョイントミーティングは 2 年に 1 回両者持ち回りで開催されるもので、前々回と今回はソウルで、今回は大山喬史大会長 (東医歯大院) の下、第 111 回 JPS 学術大会と併催で東京にて開かれております。

学会形式は、日本で行われたジョイントミーティングと同様に国際セッションの枠が設けられ、その枠と特別講演 (赤川理事長)、特別セッション (Basel 大学 Besimo 教授) のみ英語、他のセッションは母国語 (韓国語) となっていました。

日本からの出席者は 48 名 (国際渉外委員会把握分)、国際セッション (口演: 6 演題、ポスター: 30 演題) のうち、JPS 会員の発表は口演が 3 演題、ポスターが 16 演題と、日本からも多くの参加者・発表者が集まりました。国際セッションの演題には賞が設定されており、Excellent Oral Presentation Award を荻野洋一郎先生 (九大)、Excellent Poster Presentation Award を熱田生先生 (九大) が受賞しました。また、赤川安正理事長より The Future Value of Prosthodontics と題して 1 時間の特別講演が行われました。

一般演題は韓国語であるため、発表内容は理解できませんでしたが、韓国でもインプラント治療は注目を集めているようで、多くの演題が発表されていました。それと関連して業者展示も多数の

インプラントメーカーのブースが並び立っており、ノベルティグッズや資料のDVDの配布などはJPSの業者展示より積極的に行われていた感さえありました。演題のレベルは概して高く、言語を別にするとJPSの学術大会と相違ないように感じられました。

日本の歯科業界の不況をよそに韓国の歯科界は好況のようで、閉会式後の抽選会ではReplace implantのサージカルキット一式など、日本では考えられない賞品が多数並んでいました。聞くと韓国では根管治療等は保険適応ですが、補綴歯科治療は全て自費とのことでした。

なお、会期中にJPSとKAPとの交流協定の調印式が執り行われました。

(国際渉外委員会 幹事 鮎川保則)

#### 第47回日本歯科理工学会学術講演会



特別セミナー会場

平成18年4月22日(土)、23日(日)の両日、明海大学歯学部歯科生体材料学分野の中嶋裕教授を大会長として、東京都江戸川区タワーホール船堀において第47回日本歯科理工学会学術講演会が開催されました。この学会は歯科補綴学と非常に関連の深い学会で、今回も全国の補綴関連講座に所属する先生方が多数参加されていましたが、その一端を紹介してみたいと思います。

近年の歯科理工学の研究動向を概観してみますと、以前のように歯科材料の機械的強度や耐久性といった理工学的性質を評価するだけでなく、生物学的な観点からアプローチする研究が増加しています。たとえばインプラント材料をはじめとする生体材料に表面改質を行ってそれに接触する細胞動態を調べる、あるいは耐食性や溶出イオンについて分析・評価を行うといった研究が増えています。今回の特別講演も海外からHan-Cheol



研究奨励賞発表

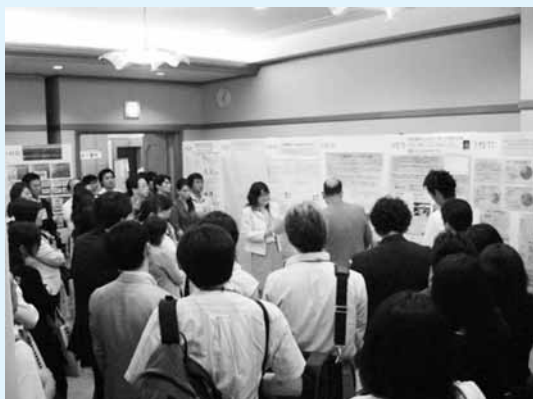
Choe教授(Chosun University, 韓国)を招いて、「Metallic Problems of Clinically Used Implant System」というインプラントに関するテーマで行われました。

歯科理工学会では数年前からDental Materials Adviser制度を設けて、一般開業医にも歯科材料についての関心を高めてもらおうという努力がなされていますが、今回はその特別セミナーとして医薬品医療機器総合機構の井出勝久先生を講師として「ご存知ですか? 歯科材料・器械にまつわる法律の話」という講演がなされました。最近是国内で使用の認可が下りていない器材でも、インターネットによる注文で入手が可能な時代となっていますが、万が一事故が起きた場合の責任問題など、我々臨床家にとっては十分注意すべき問題を含んでいたものと思われました。またシンポジウムでは、「CAD/CAMアップデート」というテーマで浦田俊太郎(ジーシー)、莊村泰治(阪大)、田村勝美(ハイテックデント)、疋田一洋(北医大)、藤原稔久(デジタルプロセス)の5人の先生方により、それぞれの立場からの講演が行われました。CAD/CAMに関連した研究は日本補綴歯科学会でも少しずつ増えてきていますが、歯科補綴装置を製作する場合、技工作業の省力化や職場環境の改善といった点からも今後の普及が期待されるものであり、大いに示唆に富むものでした。

日本補綴歯科学会も法人化され、ますます社会のニーズに応える活動が求められています。そのためには関連するさまざまな学会とも情報交換を行い、さらには連携を図って学術大会や市民公開講座を共催するといったようなことも、今後は必要になってくるのではないかと感じました。

(奥羽大学歯学部歯科補綴学講座 嶋倉道郎)

## 第17回日本老年歯科医学会総会・学術大会



大盛況のポスター会場

平成18年6月1日～2日に沖縄コンベンションセンター（沖縄県）において第17回日本老年歯科医学会総会・学術大会〔大会長：砂川 元教授（琉球大学医学部顎顔面口腔機能再建学分野）〕が開催されました。あいにくの梅雨空でしたが、全国から多数の先生方が参加されました。

大会のトップをきって会長講演：「高齢者の口腔癌治療を考える」（砂川 元大会長）から始まり、さらに、ミニシンポジウム：「老化の嚥下と咀嚼」（シンポジスト：石田 瞭先生（岡大病院）、田中法子先生（御殿場石川病院歯科）、戸原 玄先生（東歯大院）、野原幹司先生（阪大）、渡邊裕先生（東歯大オーラルメディシン））、教育講演：「老年歯科医学の登竜と進み方」（石川達也先生（東歯大元学長）、特別講演：「国立大学法人化後の琉球大学医学部・医学部附属病院について」（坂梨又郎先生（琉球大医学部長））、1日目のラストに県民フォーラム：「長寿に向けて一歯と口腔の健康」オーガナイザー：高江洲義矩先生（東歯大名誉教授）、山根源之教授（東歯大オーラルメディシン・口腔外科学講座教授）の基調講演：「アジア近隣諸国の平均寿命の現状」として沖縄：瀧下修一先生（琉球大医附属病院長）、中国：黄光武先生（広西医科大学長）、韓国：辛晁根教授（全北大学歯学部）、ラオス国：Aloung-nadeth Sitthiphanh 先生（ラオス国立大歯学部長）が講演され、さらに、フォーラム：「歯と口腔の健康を通じた長寿に向けての戦略」で、行政の面から：仲宗根正先生（沖縄県福祉保健部保健衛生統括監）、栄養の面から：尚 弘子先生〔（財）おきなわ健康長寿研究開発センター理事長〕、医学の面から：鈴木 信先生（沖縄長寿科

学研究センター長）、歯学の面から：高嶺明彦先生（沖縄県歯科医師会長）、一般市民から：北島角子先生（舞台女優）の発表が行われました。夜には懇親会が開かれクールビズを推奨する小泉首相も着用している“かりゆし（ウェア）”に参加者全員が着替え、沖縄の夜を満喫しました。

2日目には4つのシンポジウムが開催されました。シンポジウムⅠ：「高齢者歯科治療におけるリスクマネジメント」、コーディネーター：鈴木章教授（日歯大）、シンポジスト：馬見塚賢一郎先生（馬見塚デンタルクリニック院長）、深山治久教授（鶴見大歯科麻酔学講座）、大渡凡人助教授（東歯大高齢者歯科学分野）、白川哲夫助教授（北大病院高次口腔医療センター）、シンポジウムⅡ：「介護保険と歯科衛生士」、コーディネーター：山根 瞳先生（アポロ歯科衛生士専門学校長）、武井典子先生（ライオン歯科衛生研究所）、シンポジスト：白田千代子先生（中野区北部保健福祉センター）、藤平弘子先生（東京歯科大学市川総合病院）、久場島利美子先生（沖縄歯科衛生士会長）、植田耕一郎先生（日大摂食機能療法学講座教授）、シンポジウムⅢ：「長寿と現在歯数（8020はほんとうに長寿か）」、コーディネーター：米山武義先生（米山歯科クリニック院長）、シンポジスト：深井穂博先生（深井歯科医院・深井保健学研究所所長）、吉田光由講師（広大院先端歯科補綴学）、藤本篤士先生（医療法人溪仁会西丸山病院歯科診療部長）、等々力英美助教授（琉球大医地球環境医科学講座環境生態医学分野）、指定発言：菊谷 武助教授（日歯大）、シンポジウムⅣ：「長寿県沖縄のルーツを探る」、コーディネーター：稲葉 繁先生（包括歯科医療研究会代表）、渡辺郁馬先生（日本老年歯科医学会常任理事）、シンポジスト：片山一道教授（京大院理学研究科）、佐倉 朔先生（日本人類学会名誉会員）、竹中正巳助教授（鹿児島女子短大）、藤田尚助教授（新潟県立看護大）の講演、さらにランチョンセミナー2題〔「睡眠時無呼吸症候群とメタボリック症候群」、演者：名嘉村博先生（名嘉村クリニック院長）、「栄養管理における口腔ケアの重要性」、演者：小林直樹先生（万成病院歯科医長）〕、ポスター発表123題と大変内容が濃く充実し、新たな企画として優秀ポスター賞の受賞もあり、大会は盛会裡に終了しました。

（広報委員会 委員 北川 昇）



## 関連学会案内

### 日本接着歯学会 2006 年度シンポジウム

テーマ：工夫が生きる接着臨床  
日 時：平成 18 年 9 月 10 日（日）  
会 場：東京 FM ホール  
担当校：池見宅司（日本大学松戸歯学部う蝕抑制  
審美治療学講座）

連絡先：〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-  
43-9 駒込 TS ビル 3F  
（財）口腔保健協会内  
日本接着歯学会シンポジウム係  
TEL：03-3947-8761  
FAX：03-3947-8873  
E-mail：gakkai2@kokuhoken.or.jp

### 第 17 回日本歯科審美学会学術大会

日 時：平成 18 年 10 月 14 日（土），15 日（日）  
会 場：品川区立総合区民会館「きゅりあん」  
大会長：川和忠治（昭和大学歯学部歯科補綴学講座）

連絡先：〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-  
43-9 駒込 TS ビル 3F  
（財）口腔保健協会コンベンション事  
業部内  
第 17 回日本歯科審美学会学術大会  
準備委員会事務局  
TEL：03-3947-8761  
FAX：03-3947-8873  
E-mail：gakkai2@kokuhoken.or.jp

### 第 17 回 NPO 法人日本咀嚼学会学術大会

日 時：平成 18 年 10 月 28 日（土），29 日（日）  
会 場：鶴見大学会館  
大会長：鈴木敏之（鈴木学園）

連絡先：〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-  
43-9 駒込 TS ビル 3F  
（財）口腔保健協会コンベンション事  
業部内  
第 17 回日本咀嚼学会学術大会準備  
委員会事務局  
TEL：03-3947-8761  
FAX：03-3947-8873  
E-mail：gakkai2@kokuhoken.or.jp

### 第 48 回日本歯科理工学会学術講演会

日 時：平成 18 年 10 月 28 日（土），29 日（日）  
会 場：愛知学院大学歯学部  
大会長：河合達志（愛知学院大学歯学部歯科理工  
学講座）

連絡先：〒464-8650 名古屋市千種区楠元  
町 1-100  
愛知学院大学歯学部歯科理工学講座  
（準備委員長：鶴田昌三）  
第 48 回日本歯科理工学会学術講演  
会準備委員会  
TEL：052-751-2561（内線 326）  
FAX：052-752-5988  
E-mail：tsuruta@dpc.agu.ac.jp

### 第 16 回日本全身咬合学会学術大会

日 時：平成 18 年 11 月 18 日（土），19 日（日）  
会 場：東京歯科大学千葉校舎  
大会長：平井義人（東京歯科大学歯科保存学第三  
講座）

連絡先：〒261-8502 千葉市美浜区真砂 1-  
2-2  
東京歯科大学歯科保存学第三講座  
（準備委員長：高橋 賢）  
TEL：043-270-3958  
FAX：043-270-3959  
E-mail：ketakaha@tdc.ac.jp

2006 年歯科診療報酬の改定で、補綴  
装置装着時に文書を提供することにな  
りました。同時に、学会 HP の PR も  
お願いします。

社団法人 日本補綴歯科学会 広報委員会  
委員長 石橋寛二 副委員長 佐藤博信  
委員 北川昇 田中昌博 谷口尚  
細木真紀  
幹事 金村清孝  
TEL：019-651-5111（内 4127）  
FAX：019-654-3281  
E-mail：kohoips@iwate-med.ac.jp  
〒020-8505 岩手県盛岡市中央通 1-3-27  
岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座